

建築版	施工段階	設備工事：	電気	○	設備工事 ポイントシート (6-8)・(7-1)
			空調	○	
7-1	中間検査	社内中間検査・性能検査 実施要領（工程内検査／配管）	衛生	○	
			その他	—	

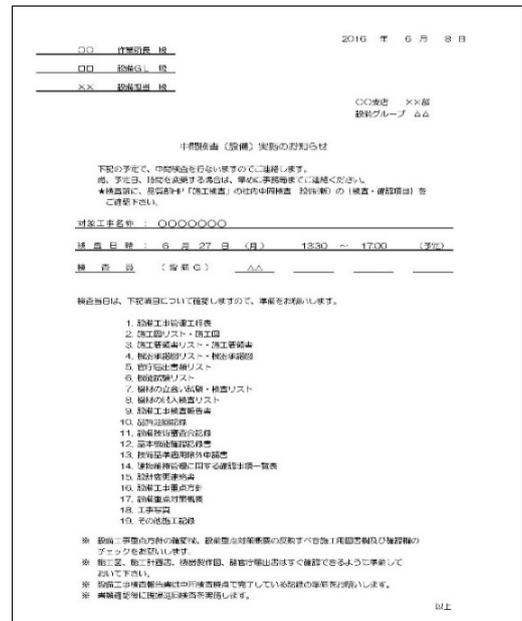
工事の中間期に工事の進捗と品質を確認するため、建築・設備の社内中間検査が実施されます。鉄筋コンクリート造の配筋工事や設備の配線・配管工事は、型枠組立・コンクリート打設、間仕切り壁や天井ボードを張る前に行われ、配線・配管ミスや断線・漏水が無いか中間検査で確認し、次工程に移行します。その後の検査では隠ぺいされて確認できなくなる個所を工事進捗に合わせ、随時工程内検査が行われます。

もしも、竣工検査時に不具合が発覚すると大きな手直し工事が発生し、引き渡しが遅延します。

ポイント

■建築に関連する設備中間検査、性能検査の実施要領

- 事前に検査項目を明確にします。
 - ・工事工程 設備工事の進捗と建築工事の進捗の影響
 - ・施工図、総合図、施工計画書、施工要領書、機器承諾図
 - ・設計・変更等図面審査、巡回時の指摘に対応する確認
 - ・諸官庁届出書類 建築確認申請、確認中間検査記録
 - ・空調機器、電気設備機能試験記録
 - ・現地施工状況、施工自主検査、施工写真の確認
- 施工管理状況のエビデンスを確認します。
 - ・「施工管理状況の確認」が出来る図書（記録・報告書）
 - ・設計者・工事監理者品質巡回時の月例等定期巡回記録
 - ・協力会社機能検査、施工記録、自主検査など検査記録
- 設備工程内検査（中間検査前自主検査）／配管
 - ・配管工事が完了し、建築仕上工事が始まる前に、所定の漏洩試験を行い、配管などから漏洩がないことを確認し、次工程（塗装工事、保温工事など）へ引き渡します。
 - ・施工の初期段階に実施するため、試験方法、試験圧力・時間の決定、安全計画など適切な計画を行い、次のような試験箇所の欠落が無いようにします。
給水・給湯配管、消火配管、冷媒配管、冷温水管、冷却水管など：水圧試験、気密試験など
- 間仕切や天井などにより隠ぺいされる部分について検査対象とします。



中間検査レジュメ(例)

先輩アドバイス

- 中間検査は、部分的な竣工検査であると位置付け、工程内検査は、その前に行い、施工要領書に基づき早期に実施します。
- 検査期間は、仕上げや保温工事、間仕切や天井で隠ぺいとなる前に実施しなければなりません。
- 大きなプロジェクトでは段階的に複数回、実施する必要があります。
- 試験表の書式は事前に確認し、検査記録として検査前・検査後の施工写真を残します。検査実施範囲を図面、系統図を用いて明確にし、検査漏れがないように管理します。

チェック項目

- 検査計画書の作成、事前確認はできていますか。
- 検査を実施する時期（タイミング）、範囲は明確になっていますか。
- 検査を実施する検査器具の準備はできていますか。
- 工事関係者（設計・監理者及び各施工担当者、専門工事会社）への周知はできていますか。
- 事前に協力会社の社内中間検査を実施する計画となっていますか。



天井内施工状況

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	○	—	○	—	○	○	—	—	○
備考	参考文献：						初版発行	2020年12月	
							改訂		